

夏になると、いろんな雑誌に夏についてのエッセイが載っている。

ある人の小学校時代の体験、「——夏休みの小学校には誰もいないのだろうか——不思議に思って見に行った」という話は興味深かった。

私にも同じ体験がある。結局、見に行っても、ただ夏休みの小学校があっただけだった。

その時だったか、裏の海へ続く道のところに白い馬が行んでいたのを不思議な感じで憶えている。かなり昔のことだから近所にけっこう馬はいたが、芦毛となると珍しかった。今もって不思議だ。

フェリーニの映画『アマルコルド』では、白馬は少年にとって、希望と不安を、ワイダの『灰とダイヤモンド』では、青年主人公にとって、理想と絶望を暗示させるかのように……すっつと白い馬が横切っていく。

そうしたきっかけから、人は、白馬が好きだった寺山修司が言うような、ガラクタを引きずって歩くような人生を迎えてしまうのかもしれない。

夏というのは狂おしく、ただただ、白馬と同じなんだな、と思っているうちに札幌は終わった。海の見える函館で、ガルダンサーは、函館デビューを目指したエリートたちを相手にどんな戦いを見せるだろうか。母も、母の兄もダートは鬼だった。

どう考えても、一流馬は函館デビュー、その下のクラスが札幌デビューという現実は否めない。ガルダンサーは血統からして古風である。母オディオラはカプトヤマ記念を制したリュウフキの全妹だが、この配合が凝っている。

リュウズキはアストニシメント系。ヤシママンナはフラストレート、ヤシマアポロはヘレンサーフ系。小岩井の古流の総力を結集した結果、月友4×4、プリメロ5×3・5、シアンモア5×4・6という日本の競馬の草創期を飾る種馬のオンパレード、父母相似となった。

厚真の櫻村惣三郎氏の生産だが、セフトあり、ダイオライトあり、トサミドリノ兄大鷲ありで、いくら見ても飽きることがない。

■ ■ ガルダンサーの母オディオラ ■ ■

リュウズキ	カバーラップニセ	Cover Up	Alibhai	Hyperion
		Betty Martin	Bel Amour II	Beau Pere
	オーカン	トシハヤ	Hollywood	High Cloud
		フクニシキ	Rhoda F.	Rhodes Scholar
ヒヤママンナ	ヤシママンナ	アリメロ	大 朋 島	シアンモア
		第彦マンナ	安 彦	セフト
		ヤシマアポロ	月 友	Man O'War
	ヤシマハター	アリメロ	第五カリアス	フリメロ
		第彦マンナ	Blandford	Swynford
		ヤシマアポロ	Athasi	Farasi
神 正	神 正	ダイオライト	シアンモアマンナ	Buckan
		種 正	マンナ	クラックマンナ
		種 正	月 友	Man O'War
			ゴルトウエニング	アリメロ
			ダイオライト	△-シアンモア
			種 正	Dioptron
			種 正	Junior